

生徒と保護者のための キャリア通信 ☆伊勢崎清明高校☆	ガイダンス 通 信	第9号 	2022. 1. 12 発行
-----------------------------------	----------------------	--	-------------------

新しい年 2022 年が始まりました。昨年は、いつでもどこでも「コロナ禍」という言葉がついて回り、制約の多い一年でした。今年もなかなか収束の兆しは見えず、感染対策が欠かせない生活となりそうです。しかし、その中でも、高校生として“できること、やるべきこと”に、懸命に取り組んで充実した高校生活を送ってください。



さて、いよいよ受験生にとって、本格的な入試シーズンの到来です。

まずは、今週末の 1 月 15・16 日に行われる「大学入学共通テスト」。毎年(一昨年までは「大学入試センター試験」)、全国で 50 万人ほどの受験生が各会場で挑戦をする二日間です。本校の 3 年次生は 176 人が、男子は群馬大学理工学部(桐生市)、女子が県立前橋女子高校(前橋市)で挑みます。本番を数日後に控え、緊張している 3 年次生も多いと思いますが、まずは健康管理。適度な緊張感はあったほうがよいと思いますが、実力が発揮できる心身で臨めるよう、「保健だより」を参考にしましょう。そのほか共通テストに関する注意事項がさまざまあります。3 年次および進路係からの直前指導をしっかり受け、万全の準備をし、今まで努力を重ねてきた自分を信じて、当日を迎えてください。

そして大切なことは、共通テストがゴールではないということです。国公立大学を目指す受験生は、個別学力試験が控えています。前期日程は 2 月 25 日から、中期日程は 3 月 8 日以降、後期日程は 3 月 12 日以降となっています。共通テストの自己採点を正確に行い、担任の先生との相談の上、出願校を決め、個別試験対策をするわけですが、とにかく途中で諦めず最後まで粘ってみましょう。3 月なっても頑張り続ける受験生が清明高校にも毎年います。必ず最後には納得のいく結果が得られるはずです。

また、すでに学校推薦型選抜や総合型選抜等で合格の内定を受けている生徒も今回の共通テストにチャレンジすることになっています。4 月からは、一般受験での合格者と同じステージに立つわけですから、その時点で遅れを取らぬよう、学力を落とさぬよう学習を続け、共通テストもプライドを持ってしっかり臨んでください。

群馬大学理工学部 (桐生キャンパス)

〒376-8515 群馬県桐生市天神町一丁目 5-1

J R 両毛線 桐生駅(北口)・東武線 新桐生駅から おりひめバス「群馬大学桐生正門前」下車

群馬県立前橋女子高等学校

〒371-0025 群馬県前橋市紅雲町二丁目 19-1

J R 両毛線 前橋駅(北口)



私立大学入試も、1月2月にピークを迎えます。共通テスト利用、各大学の独自入試があります。独自の入試は大学によってさまざまな方法があり、戸惑うかもしれませんが、出願の日程や方法を自分で調べて、出願は落ち度のないよう進めてください。去年はコロナの感染対策のために、受験会場が複数用意された大学もありました。

受験校に関する情報はこまめにチェックすることをおすすめします。

進学先は、早く決めることが大切なのではなく、自分自身が行きたいと思うところを最後まで諦めず、とことん粘ることが重要です。目指すべきところは、進学先で何を学び、どんな学生生活を送りたいか。そして、卒業後、どんな社会人になりたいかということです。清明高校3年次生の健闘を祈ります。

そして、1、2年次生の皆さん。受験はまだまだ先だなんて思っていないですか？

特に2年次生は「受験生」としての好スタートを切れるよう、4月までの3ヶ月を「3年0学期」と位置づけ、一日一日を大切に過ごしてください。何から始めたらよいかわからないとか、早く始めると忘れてしまうからとか、一歩踏み出すことをためらってはいけません。受験勉強として必要なこと、自分が不得意なことなどをよく洗い直してみてください。不安なことは先生にどんどん相談しましょう。受験勉強を始めるのに、早すぎるということはありません。何度も繰り返し、忘れても思い出せる、精度の高い勉強をしてください。

1年次生の皆さんもうすぐ2年次生。そうのんびりもしてられないはずですが、まだ進路希望が定まっていない人も多いのではないのでしょうか。「将来の夢」と問われてもピンと来ないかも知れません。でも、誰かが決めてくれるのではなく、いずれは自分自身で選び取ってゆくことです。そして今学習している基礎的なことがらが、自分の希望を後押ししてくれる大きな力となることを忘れずに、今年1年の復習をしっかりとっておいてください。

また、学校での学習だけでなく、昨今は身の周りの課題から社会問題を考える力や、その解決策など自分の考えを発信する力も問われるようになってきました。「探究の時間」などで得た知識や情報、自分で模索し、たどり着いた結論やその道筋などを活かせる機会があるかも知れません。

どんなことにも前向きに、積極的に取り組める2022年でありますように！

